

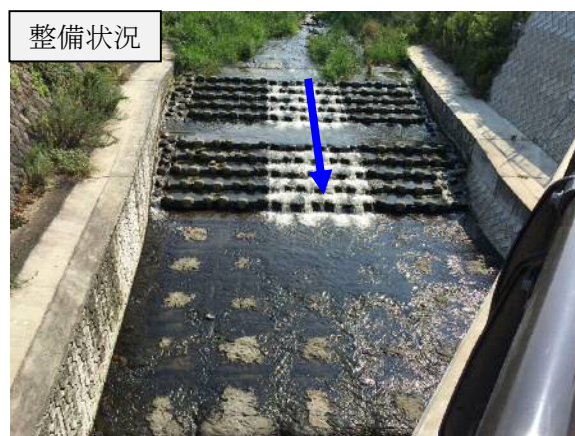
事業主体	北九州市（担当課：建設局街路課）
事業実施場所 及び規模	都市計画道路3号線（県道大蔵到津線・北九州小竹線） 八幡東区荒生田三丁目～八幡東区中央町一丁目 延長2,136m、幅員36m
工事期間	平成9年度～平成30年度
環境配慮の 背景・目的	都市計画道路3号線は、小倉都心部と黒崎副都心部を結ぶ東西の主要幹線道路であり、交通ネットワーク強化、公共交通機関の利便性向上、快適な歩行者空間確保を目的として整備を行っている。 道路整備に併せ、地域の自然環境の保全や地域資源の保存等、周辺環境に配慮した整備が求められている。

## 環境配慮の内容

### 1 生態系の保全に配慮した落差工の整備

二級河川板櫃川の「両国橋」架け替えに伴い、落差工の移設（両国橋下流側→上流側）が必要となったため、魚類などの移動に配慮した（河川に連続性を持たせた）落差工として整備した。

具体的には、板櫃川は平時の流量は少ない一方、勾配が急で出水時の流速が早く、堆積洲の移動による魚道の閉塞が予見されたため、落差工の全面に魚道を設置した。また、魚道ブロック間の落差も約18cmとし、比較的小規模な魚類でも遡上しやすい構造とした。



### 2 旧九州鉄道大蔵線の橋台・橋脚跡など、技術伝承に繋がる地域資源の保存

両国橋の架け替えに伴い、旧九州鉄道大蔵線（明治24年開通、同44年廃止）の橋台・橋脚跡<sup>※補足</sup>を撤去する必要が生じた。これらの構造物は、当時の技術を伝承する貴重な地域資源として捉え、両国橋のたもとに史跡広場を整備し保存することとしている。

#### ※補足

このレンガ造りの橋台跡はイギリス積みという当時の土木構造物や鉄道関連施設でよく用いられた工法で積み上げられており、また、橋脚上流側には、水圧や転石からの衝撃に耐えられるよう花崗岩を積むなどの工夫が施されていた。さらに、下駄歯構造といい、大蔵線の複線化を想定し、構造物と追加するレンガの一体化を容易とするため、あらかじめ構造物の表面のレンガを凹凸にする構造を利用した跡を見ることができるなど、当時の技術を伝える貴重な構造物である。

花崗岩積み



下駄歯構造



整備イメージ

標準正面図 S-1:100

